令和８年度第１回　鹿児島市図書館協議会　議事録

日　時　令和８年９月３日（木）１４：００～１５：３０
場　所　鹿児島市立図書館　２階　ＡＶホール
出席者　図書館協議会委員７名、事務局７名

【会次第】

１　開会
２　市立図書館長あいさつ
３　新任委員紹介
４　議事
　⑴　令和7年度事業報告及び決算
　⑵　令和8年度事業計画及び予算
　⑶　基本的運営方針の指標の達成状況について
　⑷　基本的運営方針の策定(改訂)について
５　その他
６　閉会

【議事概要】

議事（１）　令和７年度事業報告及び決算

（利用状況、事業の実施状況、決算）

（委員）

CD と DVD の予算は、現物を購入したものか。

（事務局）

そうである。

（委員）

今の時代は、ダウンロードして観たり聴いたりすることが多いと思う。

（事務局）

図書館が購入する CD と DVD は、貸出用ではなく図書館内で利用していただくため、許諾のあるものを購入している。

（委員）

著作権の許諾のため、購入単価はやや高いはずである。

（委員）

今後も、図書館のような公共施設では購入していくのか。

（事務局）

協議会委員の皆様のお考えも伺いたいところである。市立図書館では CD、DVD と再生機器を設置しており、親子連れや子供も利用している。

インターネットやダウンロードは、いつまで視聴できるか分からない。また、経済的にインターネットを視聴できない利用者でも、図書館では視聴することができる。

（委員）

インターネットでダウンロードした方が経済的かもしれないが、大人から子供まで、あらゆるソフトが視聴できてしまうので、規制が大変である。

したがって、図書館で許諾のあるCDやDVDを視聴する現状があると思う。

（委員）

国際的に、将来はどのようになっていくのか。

（委員）

北欧では、CDではなくダウンロードして聴くというのは10年以上前からあるが、国によって運営形態が違うので、課題がまだ多く、時間が必要である。

議事（２）　令和８年度事業計画及び予算

（事業計画、予算）

（委員）

イベントと利用状況、予算について伺いたい。

天文館図書館の「音色のとびら」は、既に40回を数える開催があり、SNSで発信されているのを拝見している。大変良い試みだと思っているが、鹿児島国際大学の音楽学科が募集停止を行っており、二年生以上の学生しかいない。今後の計画についてお尋ねしたい。

（事務局）

今後については、大学の担当の先生とも調整を行っている。

「音色のとびら」については、大学院生も含めて、学科内の他のコースの学生も参加することができるが、学生が演奏できる楽器が少なくなることも考えられるので、OBなど卒業生も含めた演奏活動を続けていけたらよいと思っている。

「音色のとびら」の目的として、鹿児島で音楽を学ぶ学生を応援したい、発表する場を作っていきたいというところは変わらずあるので、何らかの形で続けていきたいと世話人の先生と話をしているところである。

（委員）

理解した。OB、OGとも連携しながら続けてほしい。学科としても協力できる範囲でしたいと思う。

近隣の他大学との連携は、もう少し積極的にできるのではないか。実績や計画に名前がない大学があるが、大学への働きかけはどのように行っているのか。

（事務局）

大学への新たな働きかけは行っていない。

（委員）

名前のない大学では、司書と司書教諭資格は取れるが、先生が非常勤である。学生を動かすというところで少し課題があると思う。

県立短期大学では、KLCや図書館サポーターがあるので動きやすいと思う。

（委員）

図書館のサークルのようなものがないということか。

（委員）

以前はあったが自然消滅した。

（委員）

理解した。

イベントを多く実施しているのは理解したが、例えば、私が勤務している大学の図書館にチラシの送付を行っているのか。大学の図書館内で、両図書館のイベントのチラシを見たことがない。今回、来館して掲示板を見ると、岩下先生も講座をなさっているのを初めて知った。若い人たちに知ってほしいのであれば、大学の図書館は大事な告知場所だと思う。

他にも、本日出席している委員の中にも、学校の先生方がいらっしゃるので、学校にチラシを送付しているのか教えてほしい。

（事務局）

小中学校と高校には、周知を図っている。また、公民館にも周知を行っているが、大学への周知は行っていない。以前、大学生に関係があるものは周知を行った。

（委員）

大学に郵送すれば図書館で掲示してもらえるはずである。この協議会の開催時にもチラシを置けば、私は持ち帰って掲示したいと思う。郵送代もかかるので、委員にメールで送り、周知を依頼すれば掲示すると思う。多くの人に周知しないとなかなか集客は見込めないと思う。

鹿児島国際大学は、司書資格取得のための講義を開講しているので、関心がある学生が一定数は必ずいると思う。

利用状況を見ると、いずれの図書館も移動図書館も含めて利用者数は増えているが、貸出冊数は減っている。どの図書館もほぼ同じ傾向だが、これを踏まえて、図書購入予算の配分など予算計画に変更は行ったのか。また、行う予定があるのか。

また、利用状況について、どのように分析をしているのか、また。入館者数は増えているが、貸出利用者数や貸出冊数が減っていることについて問題認識があるか。

（事務局）

書架の図書の動きを見ると、必ずしも読まれていないわけではない状態である。図書館で本を読んでも借りなかったり、特に、天文館図書館では、来館して本のある空間に浸ることが目的で、本を借りて帰るというより、そこで時間を使うという動きになってきたと思っている。

また、電子図書館では、電子書籍の貸し出しだけではなく、閲覧だけの貸出しにカウントされない書籍が小中学生向けに入っており、それらの電子書籍は比較的読まれている。

これまでと図書館の使い方が変わってきたという、肌感覚がある。

予算への反映については、図書購入予算は増やしたいのだが、現実は、全体の予算の枠内に収めなければならない状況であり、委託料の人件費が上昇しており、図書購入にかかる予算が減少している。7 年度予算と 8 年度予算を比較すると 1,000 万円以上の図書購入予算が減少しているが、図書の値段も上昇しているので、購入できる冊数はかなり減少している。

図書館としては、人気のある図書を複数冊購入するのではなく、できるだけ幅広い分野の図書を増やしたいと考えている。また、ベストセラーなど人気のある図書は、予約しても借りることができるまで待っていただく状態になっており、予約件数は増えても、貸出冊数は伸びない現象が出てくると思う。

図書館としては、 5 年後、10 年後に借りられなくなる図書を多く所蔵するより、可能な限り多くの分野の図書を所蔵したいと思っている。予算が減ると購入できる冊数も減るので、利用者がすぐに読めないこともあると思うが、利用者の興味もかなり広くなっているので、できる限り多くの人のニーズに応えられる資料を広く収集していきたいと思っている。

貸出冊数は減っており、増やしたい思いはあるが、それに捉われて、人気本で増やすということ

はしたくないと思う。
（委員）
入館者数が増えているのに対して、貸出利用者数が減少するというのは、図書館の利用形態が変化をしてきているということではないか。

議事（３）　基本的運営方針の指標の達成状況について

質疑応答なし

議事（４）　基本的運営方針の策定（改訂）について

（委員）
利用者アンケートのレファレンスの満足度が低いと感じる。私自身、レファレンスを利用したことがあるが、満足度は高かった。利用者は、普通はパソコンやスマホで検索をして、解決しなかった場合に来館するのではないかと想像する。そのような来館者の要求が高いために満足度が低いのであれば、改善するのは難しいのではないか。
（事務局）
12 月のアンケート期間に応えていただいており、レファレンスを利用した方に満足度を聞いているわけではない。利用したことがない回答者は、どちらとも言えないという回答になってしまう。
どちらとも言えないという回答が大きな割合を占めて、利用したことがある方、知っている方にとっては、利用したことがあるが、不満という回答になってしまう。
レファレンスサービスは件数より質であると思う。図書を探すだけであれば、レファレンスは必要ない。特集やイベントを企画すれば、わざわざカウンターで尋ねなくても自分で調べられる。自分で調べられるツールがあればあるほどレファレンス件数は減ると思う。
ただし、その場合でも、もっと詳しく知りたいという方々にレファレンスを利用してもらいたいので、必ずしも件数が多ければいいというわけではない。
そのため、指標では、レファレンス件数の目標値をあまり増やしていない。自分でインターネットで調べることもできるようになってきており、企画展等で、適宜必要な特集を組んでいけば、レファレンスでなくても自分で選べるという形になる。
（委員）
西村議員のご指摘のように、普通の利用者が見るとレファレンスの満足度が低いと思ってしまう。
アンケートの罠ではないが、実際にレファレンスを利用した人に聞くなど、時期や対象者を整理して、実態と離れることがないようにした方がいいと思う。
レファレンスは大変な作業なので、労力が数字に反映されないと少しもったいない気がする。
（委員）
目標値について、例えば、ホームページの使いやすさを 60 パーセントから 80 パーセントに修正するのは難しいと思う。利用している人に対して聞かないとあまり意味がない。利用しない、図書館に来ない人には、なぜ図書館に行かないのかを聞いた方がいいと思う。
具体的な提案としては、例えば、不満とやや不満を足した数字をこれ以下に抑えますという目標設定をしてみてはどうか。どちらとも言えないという回答は、おそらく使っていないのでよくわからないということではないか。
新聞を読んでいる方とか、ゆっくり過ごしている方にホームページの満足度を聞いても答えられ

ないと思う。
そうであれば、やや不満と不満を足した数値をこれぐらいに抑えますとすれば、質問を変える必要もないので、いかがかなと思う。満足度を目標値にしてしまうと、印象が良くない。
実際、不満と答えている利用者は、少ないと思う。グラフにすると、満足度がこんなに低いのかと言われて、説明を求められると思う。
市民一人当たりの貸出冊数は、少なくとも横ばいかまたは下がっていくものと思われるので、それを1.5冊増やして5.0冊と目標値を設定するのは実現が難しい目標値ではないだろうか。
岩下委員から、図書館との付き合い方や本の閲覧の仕方が変わってきていると指摘があった中で、貸出冊数を増やすことを目標とすることに意味があるのか、今後考えていくべきことかなと思う。
（委員）
鹿児島市の様々な計画と、絵本ガイドの配置や、環境の整備が記載されている子どもの読書推進計画と整合性を図って素案をまとめるのは大変な作業だったのではないかと思う。
（委員）
市立図書館に来るのは初めてに近いが、素敵な場所だと思った。もっとこの図書館を教員が知れば、子供が図書館を知ることにすごくつながると思う。
例えば、学校の先生たちの研修会の会場として利用するとか、図書館を目にする機会を増やしていけば、もっと、いろんなことが知ってもらえるのではないかなと考えた。
現在、NHK のドラマで図書館が舞台になっており、検索、分類や補修のことが、多く取り上げられている。ドラマのポスターを貼ってみてはどうかと思った。私も図書館に足を運んで図書館のことをもっと知りたいなと思う。
（委員）
「税金で買った本」を所蔵してほしい。
（事務局）
おそらく電子図書館にも入っていると思うが、貸出し中が多いかもしれない。
（委員）
図書館が、いかにして市民に図書館に足を運んでもらうかというすごく工夫をしているのだなと思った。
予算も年々厳しくなっている。私の感覚としては、美術館、博物館は、稼ぐ力がないといけないという方向に、今、国が舵を切ろうとしている感じがする。図書館には稼ぐ力がないが、人が来てこそ意味があるという感じですごく言われると、それが全てではないのだが、人がたくさん来ないと価値はないというような形になってしまい、やはり良くないのではないかと思った。
私も、夏休み中に研修で谷山の図書室を使う中で、谷山にラプラスという福祉施設があり、そこに有料の図書館がある。平日は500円で3時間利用できる。平日10時から7時頃まで1000円で、ドリンク付きではないか。図書館の規模としては県立や市立の図書館とは違うが、オープンした時に行った時は人が少なく、お金を払って図書館に来るという感覚が、やはりまだまだないのだと思うと設置者が言っていたが、今年は、高校生も来ていたり、パソコンを持ち込んで仕事をしたりしている人もいた。
市立図書館では座る場所がなかったりすることを考えると、蔵書のレベルは、ラプラスより谷山の図書室が良いので、谷山の図書室で本を借りて、ラプラスでその本を読むなどの連携があってもいいと思った。

（委員）

予算が減って大変だと思う。入館者は増えているが、貸し出しは減っている。電子図書館も減っている。指標の目標値について、人口も減り、予算も減る中、おそらく厳しい目標ではないかと思う。何かしらの考えがあっての目標だとは思う。

説明の中で何度か出てきたが、図書館の使い方が変わってきているとのことだが、私自身はこれまで、図書館で本を借りるという利用をしているが、本当に使い方が変わっているのか、いつもアンケートの結果を見て感じる。できれば、来館目的について、過去の調査結果など、振り返りの資料があれば、今後、違った目線で議論できるのではないかと思うので、次回そういった資料も共有していただけたら嬉しい。

（委員）

鴨池公民館に勤務しているが、先月の下旬まで、図書館の研修室と公民館の学習室は満席だった。

一般の方々も公民館を利用するが、公民館に勤めてみて、少し違和感があることは、公民館は社会教育施設だが、仲間づくりや、組織づくり、話し合いという活動ではなくて、一人で勉強している。

個人での学習の場で、サードプレイスという言葉が今の状況にぴったりで、仲間づくりや話し合いという活動ばかりではなくて、居場所づくりというものが社会教育に必要とされているのではないかと理解した。

アンケートについても、公民館も人気商売であり、利用団体数、利用人数を毎年比較するが、なかなか伸びない。伸びるところは、やはり郊外や人数が多い施設である。また、クレームが少ないことと、注文が少ないことを心がけようというのがある。先ほどあった、不満とやや不満を抑えるという、評価や目標の設定がいいなと気づかされた。

（委員）

大人や立場のある人間が、図書館はいいところだとか、こんなイベントをたくさんやっているということを、大学生などに伝えて、少しでも足を運んでもらうことで、お役に立てるのではないかと考える。引き続き、よろしくお願いしたいと思う。

（委員）

今年度の予算は、昨年より若干増えているが、資料購入費がかなり減っており、図書館として厳しい状態であり、今後どうするか難しく、影響もかなり大きいと思う。

図書館の利用方法が変化しているのであれば、指標も変えていいと思う。これまでと同じような指標では、さらに数値が悪くなっていくので、よく見える数値の方で、アピールするといいのではないかと思った。

評価する指標も、変化に合わせていくことで、職員や委員のやる気やモチベーションにつながる気がするので、検討いただきたい。